

(様式4)

シ 2010-2 号
平成 22 年 1 月 29 日

外務大臣官房会計課長
齋木 尚子 殿

社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)
会長 若林 恭英

日本NGO連携無償資金協力
事業完了報告書

2008 年 11 月 21 日付日本NGO連携無償資金協力贈与契約に基づく「アフガニスタン・ナンガ
ハール県における学校建設事業」が、2009 年 11 月 30 日をもって完了いたしましたので、関係書
類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

1. 事業の実施期間： 2008 年 12 月 1 日 ～ 2009 年 11 月 30 日

2. 事業の実施成果（要約）：

事業対象の 3 校はすべて県教育局が管理下する公立校で、教員の配置は行われているが、教室が
不足していた。クズクナール郡の「アハマディコット男子高等学校小学部」、ソクロッド郡の「フ
ァクルラ男子高等学校小学部」は教室不足から約半数の児童が屋外での授業を余儀なくされ、ソク
ロッド郡「カイラアバッド小学校」は、外壁はあるものの校舎が全くなく、すべての児童が野外か
テントで学習していた。

前者の 2 校では、RC 構造(鉄筋コンクリート)の校舎、全 11 教室 (8 教室、1 図書室、1 校長室、1 職員室)
をそれぞれ建設し、カイラアバッド小学校では、同じく RC 構造の校舎、全 9 教室 (6 教室、1 図書
室、1 校長室、1 職員室)を建設した。建設後、学校備品の設置、図書室の整備を行った。受益者総数は、
児童 1564 名、教員 95 名 (事業開始時)であった。

3. 日本NGO連携無償資金精算額： 38,842,572 円
(契約額 (供与限度額) より 7,919,946 円の減)

4. 会計報告 (事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し) :
別紙のとおり

5. 外部監査報告書提出予定日：2010 年 1 月 29 日

【添付書類】

- ①会計報告関係
 - 事業資金収支表 (様式 4-a)
 - 資金使用明細書 (様式 3-a)
 - 経費支払証明 (証拠書台紙) (様式 3-b)
 - 銀行口座残高証明 (または通帳写し)
- ②事業の成果 (詳細報告書)
- ③事業内容説明写真

日本 NGO 連携無償資金協力 事業完了報告書

2010 年 1 月 29 日

(1) 事業名称(案件名)

アフガニスタン国ナンガハール県における小学校建設計画

Primary School Construction Project in Nangarhar Province, Afghanistan

(2) 事業サイト

ナンガハール県クズクナール郡「アハマディコット高等学校小学部」、ソクロッド郡「ファクルラ男子高等学校小学部」、ソクロッド郡「カイラアバッド小学校」

(3) 事業概要

対象の 3 校はすべて県教育局が管理下する公立校で、教員の配置は行われているが、教室が不足していた。クズクナール郡の「アハマディコット男子高等学校小学部」（事業開始時の児童数 484、教員数 26）、ソクロッド郡の「ファクルラ男子高等学校小学部」（事業開始時の児童数 1682、教員数 56）は、教室不足から約半数の児童が屋外での授業を余儀なくされ、ソクロッド郡「カイラアバッド小学校」（事業開始時の児童数 602、教員数 13 名）は、外壁はあるものの校舎が全くなく、すべての児童が野外かテントで学習していた。

本事業で、以下の校舎建設、学校備品の供与、図書室の整備を実施した。

対象校	建設した校舎	供与した学校備品
アハマディコット男子 高等学校小学部	RC 構造の校舎 全 11 教室(8 教室、1 図書室、1 校長室、1 職員室)	<ul style="list-style-type: none">・ 教室に 3 人かけの机・椅子セット、8 教室×15 セット=120 セット・ 各教室、校長室に教材用棚・ 校長室、職員室に机、椅子・ 図書室の棚、机、椅子
ファクルラ男子高等 学校小学部	RC 構造の校舎 全 11 教室(8 教室、1 図書室、1 校長室、1 職員室)	<ul style="list-style-type: none">・ 教室に 3 人かけの机・椅子セット、8 教室×15 セット=120 セット・ 各教室、校長室に教材用棚・ 校長室、職員室に机、椅子・ 図書室の棚、机、椅子
カイラアバッド小学校	RC 構造の校舎 全 9 教室(6 教室、1 図 書室、1 校長室、1 職 員室)	<ul style="list-style-type: none">・ 教室の 3 人かけの机・椅子セット、6 教室×15 セット=90 セット・ 各教室、校長室に教材用棚・ 校長室、職員室に机、椅子・ 図書室の棚、机、椅子

*RC 構造とは、鉄筋コンクリートの建築構造を意味する。

建設後、校舎の維持・管理ワークショップを教員、地域住民を対象に行った。

校舎建設にあたっては、アフガニスタン教育省建設局の学校建設基準を基本とし、教育省との連携の下進めた。学校図書室を設置し、弊会出版の絵本を含むアフガニスタンで出

版された図書及び日本から寄贈された絵本の計 700 冊を各校に供与した。今後、ふおろアップ活動として、図書室が有効に活用されるための教員研修を実施する予定である。

事業運営に関しては、日本人調整員を東京事務所に配置し、遠隔操作によって出張ベースで事業管理を行った。アフガニスタン人現地事務所副所長 1 人、学校建設担当職員 3 人、事業補佐職員 2 人により、事業の発掘、設計、施工及び施工管理、備品設置を実施した。日本人職員の現地出張を 6 回・人予定していたが、2009 年 8 月の大統領選挙に伴い治安が悪化したため、現地への出張は 2 回に減らし、代わりにバンコクで現地職員との業務調整を行った。

(4) 活動報告

アハマディコット男子高等学校小学部は、2009 年 2 月 12 日に着工し、2009 年 11 月 20 日に完成。竣工式を 2009 年 12 月 8 日に実施した。

ファクルラ男子高等学校小学部は、2009 年 3 月 20 日に着工し、2009 年 11 月 25 日に完成。竣工式を 2009 年 12 月 20 日に実施した。

カイラアバッド小学校は、2009 年 7 月 24 日に着工し、2009 年 11 月 29 日に完成。竣工式を 2009 年 12 月 20 日に実施した。

事業行程に関しては、以下の工程表の通り進められた。サイトエンジニアを採用、配置し、現場監督は、対象地域村内より雇用し、現場の工程管理にあたった。

工程中、8 月の大統領選挙の前に道路が一部閉鎖されたり、検問が強化されたりした。そのため、資材の運搬に支障をきたし、一部の工程で当初予定より遅れを生じたが、実施期間中に工事を完了することができた。

工程表
基礎工事、地ならし
基礎部分粗石積み
柱部分の鉄筋作業
いが積み
柱部分
ドア枠および窓枠のはめ込み作業
屋根強化部分の鉄筋作業
鉄筋および屋根部分
コンクリート加工
床面
ドアおよび窓の設置(ガラスなし)
ペンキ塗り
窓ガラスの設置
最終整備

(5) 活動評価

【妥当性】

妥当性は非常に高いと判断される。対象国の政策との整合性については、「ア」国の国家戦略において教育復興は最優先課題の一つとされている。教育省の教育戦略 5 年計画においては、学校校舎などインフラの整備は緊急性がある優先課題として位置付けられ、2007 年の時点で、就業年齢に達した児童たちをすべて受け入れるためには、国内全土においてさらに約 5000 校の校舎、72000 教室が必要とされている。建設した校舎の設計図は、「ア」国教育省の設計基準に基づいており、耐震性の高いものとなっている。

住民のニーズに関しては、対象地域であるナンガハール県においては、約 400 校の校舎のうち、約 100 校舎が新たな校舎や大幅な修復が必要とされており、校舎建設のニーズは高い。また、ナンガハール県の教育整備は州都のジャララバード市をはじめ、郡の中心部など比較的都市部に集中しており、農村部の学校の整備は遅れている。校舎が不足している学校で学ぶ児童は、野外あるいはテントの下での学習を余儀なくされており、雨が降ると授業は中止され、酷暑の時期の学習環境は厳しい。

アプローチに関しては、専門的な作業は業者に委託するものの、基本的には当会が資材調達ならびに施工管理を行った。コミュニティが一部の建設資材や労働力を提供したり、治安を管理し、資材の盗難を防止したりするなど、住民の参加、協力によって実施した。

【有効性】

事業目的であった「教室不足のために野外での学習を余儀なくされている児童数が減少する」は達成され、教室建設という活動と事業目的の間には強い因果関係が認められるため、有効性も非常に高いと判断される。表が示すように、本事業によって、1562 名の児童が野外での学習から解放され、快適で安全な教室で学習することができるようになった。

	青空学級の児童数		
	事業開始前 (2008 年 9 月)	事業完了後 (2010 年 1 月)	減少数
アハマディコット男子高等学校小学部	240	0	240
ファクルラ男子高等学校小学部	840	120	720
カイラアバッド小学校	602	0	602
合計	1682	120	1562

【効率性】

効率性は高いと判断される。効率性を高めた要因として住民組織の協力があげられる。コミュニティの参加、協力を得たことによって、基礎工事のための資材（土や石）、労働力をコミュニティから調達した。また、治安の悪いアフガニスタンにおいて、コミュニティ側の役割として、建設現場に搬入された建設資材の盗難を防止することを事前に合意したため、盗難による損失を防ぐことができた。

【インパクト】

上位目標である進級率、退学率の改善を判断するには、時期尚早である。しかしながら、2003 年以降これまでに 19 校の校舎建設を実施してきた経験から、校舎建設によって学習環境が改善

し、教員の勤労意欲、児童の学習意欲が向上していることが明らかになっていることから、上位目標である学習達成度の改善、進級率の向上、退学率の低下が発現することが期待される。今後、インパクトの発現の有無をモニターしていく予定である。

【自立発展性】

自立発展性は高いと判断される。対象校は事業開始前より既に公立校として教育省に登録していることが前提となっている。教育省は、すべての学校の管理責任を有し、地方においては州教育局が公立校を管轄している。そのため、建設した学校は、竣工式において、州教育局に譲渡され、同局の管理下、維持、保持されていく。

しかし、教育局の予算が不十分であることから、学校の維持管理を教育局のみが担うのは実際は困難である。そのため、本事業では村人たちを中心とした維持・管理ワークショップを建設後に行い、簡単な修復作業などはコミュニティが行うことを促している。

【まとめ】

2009 年は、2002 年以降治安が最も悪化した年であった。反政府武装勢力による襲撃は、2008 年の 5200 件から 2009 年に 7400 件に増加した。また市民の犠牲者は、2009 年の 1 月から 7 月だけで 1500 人にのぼった。

本事業によって、当会が建設した小学校校舎は、22 棟になり、受益者である総児童数は、18,346 名となった。少しずつでも本事業のように目に見える形での村レベルでの支援事業は、人々への希望となっている。ひとつの村に事業が完了して行われることは、他支援への普及効果ともなっていく。都市部と地方の格差が広がるなかで、今後も農村部での教育改善事業は必要不可欠であると考えられる。

竣工式の実施報告

アハマディコット男子高等学校小学部

2009 年 12 月 8 日に同校にて竣工式が実施された。参加者は、州教育副局長、州経済局長、郡教育局長、州議会議員。同校の全教員と SVA スタッフであった。

式典はコーランの朗読で開始された。

校長は、来賓の出席に歓迎の意を表した。また、「同校の生徒は 8 年間、校舎がなく、屋外で勉強していた。しかし今、日本の人々の協力により、品質の高い素晴らしい校舎ができた」と語った。

郡教育局長は、SVA への謝意を述べ、特に日本に人びとに感謝すると語った。さらに同局長は、日本の人びとの協力で、SVA はナンガハール州の他の地域でも多数の校舎が建てられていると述べた。また全教員に対し、教育と校舎の維持管理のために共に働くよう求めた。

教育省副局長は、教育省を代表して、日本の人びとの協力への謝辞を述べるとともに、SVA がナンガハール州で 22 校を建設したと述べた。「SVA の活動を誇りに思う。アフガンの人々のための協力を今後も続けてほしい。ナンガハール県教育局は日本の人々のあたたかい協力を忘れない。わたしたちは政府の側から SVA に協力していく」と語った。

SVA 副所長は、SVA を代表して校舎について説明した。そしてアハマディコットの人々に祝辞を述べ、アハマディコット村の人々に校舎を大切にしてほしいと求めた。

州議会議員のガフォリー氏は、「あらためて日本の人々に感謝する。この校舎ができるまで、生徒は屋外で勉強していた。しかし今、生徒たちにはとてもきれいな校舎がある」と語った。

NGO を監督している経済局長は SVA に謝意を表し、「通常、援助機関は建設を民間業者に委託しているが、SVA は、自分たちで直接施工を実施している。そのおかげで、SVA の校舎の品質は良く、わたしも経済局も非常に喜んでいる。SVA に感謝する」と語った。

ファクルラ男子高等学校小学部およびカイラアバッド小学校

2009 年 12 月 20 日にファクルラ男子高等学校小学部、カイラアバッド小学校開校式の竣工式が実施された。参加者は、州教育局副局長、州経済省局長、郡教育局長、州議会議員、郡長。2 校の全教員と SVA スタッフであった。

式典はコーランの朗読で開始した。

郡教育局長は来賓の出席に歓迎の意を表し、「生徒たちは多くの問題を抱えていたが、学校が建てられたことで解決した。この学校建設は、教育にとって非常に大きな前進だ」と述べ、全ての日本人に感謝すると語った。

州教育副局長は、日本への謝意を表明し、「この 2 校の設立時には、生徒が勉強するための校舎も教室もなかった。しかし今、わたしたちは開校式を迎え、とてもきれいで高品質の校舎を目の前にしている。人々はとても喜んでいる」と話した。

郡長はすべての日本人に感謝すると述べ、特に学校建設を支援したドナーに謝意を表明した。そして、「学校の安全を約束する。アフガニスタンは 30 年の間に破壊された。今必要なのは、全ての人々が共に働き、支え、復興を実現することだ」と話した。

州経済省局長は、SVA が果たしたすべての仕事に感謝すると述べた。また、「すべての人が戦争から離れ、他の国々と同じように平和や教育のために働くよう求めたい。例えば、これは隣国ではできていることで、アフガニスタンだけが、戦争のせいでできていない」と話した。